



西中だより

令和4年8月25日(木)
西中学校だより 発行 松田昌樹

学校教育目標

「知を磨き、豊かな心と
たくましい体を持った
生徒の育成」

I はじめに

本年4月19日(火)に全国の中学3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」には、本校の3年生128名が参加しました。本調査は今年で14回目の実施となり、本年度は例年実施されている「国語」・「数学」の2教科に「理科」が調査対象に加わり、3教科で実施されました。また、これまでと同様に、生徒の学習習慣や生活の諸側面に関する調査(アンケート)も同時に行われました。

この度、調査結果の分析がまとまりましたのでその概要をお知らせし、ホームページにも掲載いたします。また、調査結果の分析をもとに、課題点や改善すべき点等について職員間で共通理解を図り、すべての生徒に確かな学力や望ましい学習習慣等をはぐくむことができるよう、引き続き指導の改善に取り組んでまいります。

II 本校の状況(平均正答率でみた本校の状況)

	国語	数学	理科
全国平均との比較	○	○	○
県平均との比較	○	○	○

本校の平均正答率は、国語・数学・理科、いずれの教科においても全国・県平均を上回る結果でした。

*○は上回っている、=は同じ、△は下回っている

III 教科ごとの状況

【国語】

◎正答率が全国・県平均を大幅に(5ポイント以上)上回った設問(14問中3問)

- ・話しを進め方の良さを具体的に説明したものとして適切なものを選択する。
(論理の展開などに注意して聞く。)
- ・資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きに書き加える。
(自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く。)
- ・行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する。
(行書の特徴を理解する。)

△正答率が全国・県平均を大幅に(5ポイント以上)下回った設問(14問中1問)

- ・漢字を書く。「除く」を漢字で書く。

◇今後の取組

- ・授業で定期的に行っている「漢字の小テスト」を練習から振り返りまで丁寧に行い、確実な定着を図っていきたい。
- ・授業の中でもスピーチや発表機会を増やし、相手の反応を踏まえ、自分の考えがわかりやすく伝わる表現を考えさせたい。また、生徒同士で表現の工夫を意識し、互いに助言し合える話し合い活動も行っていきたい。

【数学】

◎正答率が全国・県平均を大幅に(5ポイント以上)上回った設問(14問中3問)

- ・自然数を素数の積で表すことができる。
(42を素因数分解する。)
- ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。
(差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成する。)
- ・与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。
(与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く。)

△正答率が全国・県平均を大幅に(5ポイント以上)下回った設問(14問中2問)

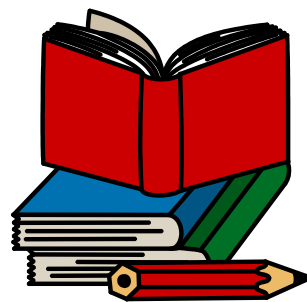
- ・反例の意味を理解している。
(ある予想がいつでも成り立つかどうかについて、正しく述べたものを選ぶ。)
- ・データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できる。
(コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び、理由を説明する。)

○全国・県平均を上回っているが正答率の低かった設問

- ・筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を数学的に説明することができる。
(図形の問題において、条件を保ったまま辺の長さを変えた場合に成り立つ性質を見だし数学的に説明する。)

◇今後の取組

- ・確率の計算や正しい計算を書くこと、合同条件を書くことなど知識・技能を見る問題が全国・県平均と比較して高かった。今後も、基礎的・基本的内容の確実な定着を図りながら授業を進めていきたい。一方では、図形問題の正答率が低かったことから、言葉の意味を理解し、論理的に考え、表現する力を伸ばす必要がある。そのため、授業や課題において深く考え、粘り強く課題解決に向かう場面を設定していきたい。
- ・ヒストグラムから読み取り、説明する問題の正答率が低かった。データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することが求められている。データの分析方法や表現の仕方をしっかりと指導し、そこから読み取れることがどのような意味を持つのか授業の中で考え、共有し、整理の仕方を深め、生徒の力を伸ばしていきたい。



【理科】

◎正答率が全国・県平均を大幅に(5ポイント以上)上回った設問(21問中7問)

- ・気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り雲の種類の変化と関連付けて、適切な天気図を選択する。
- ・「バネが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択する。
- ・考察の妥当性高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する。
- ・過去の大地の変動について、垂直方向だけではなく水平方向の変動も踏まえた推論が必要であることを指摘できる。
- ・液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する。
- ・アリが視覚による情報を基に行列を作るかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する。
- ・予想や仮説と異なる実験結果となった場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件制御不備の可能性を指摘する。

△正答率が全国・県平均を大幅に(5ポイント以上)下回った設問(21問中2問)

- ・観察した気圧と天気図の気圧が異なる理由を、観測地の標高を空間的に捉え説明する。
- ・物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できる。

◇今後の取組

- ・授業の中で見いだした規則性や関係性を基に、身近な道具や技術などから新たな問題を見だし、課題を設定して科学的に探究する場面を設定したり、実感を伴った理解を図るために、データや画像などをネットワーク上に蓄積、共有して、考察する場面を設定したりしていきたい。
- ・自分の考えを目的や仮説を基に適切な用語や図、グラフ、表を用いて論理的に書き表す課題を工夫し、学習事項同士の繋がりを意識しながら文章にまとめる力をつけるような指導を行っていきたい。

【生徒質問紙調査】

全国学力・学習状況調査では、各教科の学力調査と同時に、学習意欲・学習方法・学習環境・生活の諸側面等に関する質問紙調査(アンケート調査)も行われています。本年度は69問の設問がありましたが、本校3年生の特徴的な部分を以下に示してあります。

○生活習慣・自分自身について

- 本校生徒の81%が「スマートフォン等の使い方について、家の人と約束したことを守っている」と回答し、全国・県平均と比較すると10%以上多い。また、「1日に2時間以上ゲームをする」と回答した本校生徒は42%で、全国・県平均より約10%少ない。
- 本校生徒の84%が「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」、79%が「将来の夢や目標をもっている」と回答しており、全国・県平均を10%程度上回っている。

○学校生活について

- 「人が困っているときは、進んで助けている」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と答えた生徒の割合は、全国平均を約5～10%上回っている。
- 本校生徒の85%以上が「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と回答しており、全国・県平均を5～10%程度上回っている。

○学校での学習等について

- 国語の勉強について生徒の70%が「好き」、90%が「よくわかる」と回答しており、いずれも全国・県平均を10%程度上回っている。
- 数学の勉強についても70%近くが「好き」、85%が「よくわかる」と回答しており、全国・県平均を10%程度上回っている。
- 理科では、80%以上が「好き」、90%近くが「よくわかる」、70%以上が「社会に出たときに役に立つ」と回答するなど、いずれも全国・県平均を10%程度上回っている。
- △「授業で週3回以上PC・タブレットを使っている」と回答した生徒は80%を超え、全国・県平均を30%以上上回っているが、「意見交換をする場面でPC・タブレットを使っている」「考えをまとめ、発表する場面でPC・タブレットを使っている」と回答した生徒の割合は全国・県平均を5～10%程度下回っている。

○家庭学習・読書習慣について

- 48%の生徒が「平日は1日に2時間以上家庭学習している」、65%の生徒が「休日は1日に2時間以上家庭学習している」と回答しており、いずれも全国・県平均を10～20%上回っている。
- 約40%の生徒が「1日に30分以上読書をしている」と回答しており、全国・県平均を5～10%上回っている。

本校の3年生は、学力調査において国語・数学・理科ともに県・全国平均を上回る状況であること、「スマートフォン等を適切に利用している」、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」、「将来の夢や目標をもっている」等と回答した生徒の割合が全国・県の平均より高いこと等がわかりました。

学習面につきましては、家庭学習が習慣化されている生徒が多く、国語・数学・理科などの学習が「好き」「よくわかる」と感じている生徒が多い一方で、「意見交換をする場面や発表の場面」におけるPC・タブレットの活用が少ないなどの課題も明らかになりました。

本校では、校内研究において「主体的・対話的で深い学びの実現」を研究主題に掲げ、日々の授業や生徒の学校生活をよりよいものにするよう学校体制で実践的な研究に取り組んでいます。今回の調査結果を全教職員で共有し、授業や指導の更なる改善に結びつけていこうと考えています。また、授業におけるICT機器の活用方法などについても、より一層の工夫をして参りたいと考えております。

今後も西中学校教育の推進に向け、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

甲府市立西中学校

〒400-0035 甲府市飯田五丁目13-1

TEL 055-222-1378 FAX 055-222-1374